

## 視察報告書

会派名：財政健全課



### 1. 視察の概要

- ・目的 「地方創生は古い建築物を見直せ」の著者・鈴木勇人氏から、古い建築物の再生について学ぶ
- ・期間 2023.6.16(金)、17日(土)
- ・場所 福島県福島市 他
- ・参加者 杉浦 功記

### 2. 講師・鈴木勇人氏について

(株)ボーダレス総合計画事務所 前にて

福島県福島市に拠点を置き活動する、再生建築の第一人者。株式会社ボーダレス総合計画事務所（旧鈴木設計）代表者。飯坂温泉「旧堀切邸」をはじめ、福島の複数の再生建築に携わり、数々の賞を受賞。創業者である父親は飯坂温泉「鯖湖湯」再現設計に携わった。こうした経験等を踏まえて著書「地方創生は古い建築物を見直せ」を刊行した。また福島市をホームタウンとするサッカーJ3「福島ユナイテッドFC」の代表者も務め、まちづくり及びスポーツの面から地域振興に貢献している。

### 3. 視察に至った経緯

私は「旧一色町役場リバイバル」を公約に掲げ、それに向けて古くて価値のある建築物の有効活用事例などを研究してきた。その過程で、鈴木氏の著書を拝読し感銘を受けたことから、鈴木氏の手掛けられた建築物を見て話を聞いてみたいと考え今回の視察に至った。

### 4. 視察の内容

#### ① 鈴木氏の講義等

- ・日 時 2023.6.16(金)15:30～17:30
- ・場 所 福島県福島市 株式会社ボーダレス総合計画事務所 事務所内
- ・内 容 スライドを用いた鈴木氏の講義を受け、質疑応答や意見交換をした。

#### ② 建築物等の見学

- ・日 時 2023.6.17(土)6:30～17:30
- ・場 所 旧堀切邸、なかむらや旅館、鯖湖湯（3つとも福島県の飯坂温泉地区にある）  
会津若松市役所、道の駅ふくしま
- ・内 容 鈴木氏にアテンドいただき、各建築物の説明を受けた。

## 5. 観察先の所感等

### ① 旧堀切邸について

鈴木氏が手掛けた代表的な再生建築物。名家の邸宅であったが、市に譲渡された後10年以上放置されていた。鈴木氏自身が著書の中で「旧堀切邸は、控えめに言っても『あばらや状態』だった」と語っていたが、講義スライド写真に出てきた旧堀切邸は今にも倒壊しそうな、まさに廃墟だった。そんな建築物を再生した技術もさることながら、新施設を作る以上の予算を投じた行政の決断と、建築物の本質的価値を丁寧に説明し続けて住民の理解を得ていった鈴木氏たちの熱意に、関心するばかりだった。再生にあたっては鈴木氏たちの提案に対し「再生せず取り壊し、温泉パークにしてはどうか」というように真っ向から反対する住民も多数いたとのこと。そうした方たちと対話を繰り返し合意を得たからこそ、ただ単に保存修復をして終わりではなく、地域交流や観光交流の拠点としての高い利用率に繋がったのだろうと推察される。宿泊客が夜の飯坂温泉街を散策し賑わいを生むよう、公共施設にもかかわらず夜21時まで開館するなど行政側の配慮も窺えた。

この観察以前には名前すら知らなかった飯坂温泉であるが、旧堀切邸を中心としたまちの一体感に肌で触れ、この温泉街に再び訪れたいと心から思える素晴らしい経験ができた。もし派手な温泉パークが建てられていたら、果たして再び訪れたいと思っただろうか。



①旧堀切邸



②なかむらや旅館

### ② なかむらや旅館について

全館が「国登録有形文化財」の老舗旅館。江戸末期、明治中期建築の2棟を有し、内部は独特の空間が広がり、まるで違う時代へ迷い込んだかのような感覚になる。この建物は、東日本大震災で梁が折れるなど大規模半壊の被害を受け、存続の危機に陥った。鈴木氏が被災状況の調査をして3階部分の取壊しを進言するも、女将さんの強い希望により元の形を残したまま、鈴木氏の手で再生工事が行われた。一般的に文化財の改修は、費用や技術面でハードルが高く諦められてしまいがちである。価値ある建物を残すためには、施主の熱意と建築関係者の努力、行政や地域の理解と支えが不可欠である。鈴木氏の取り計らいのおかげで、実際に宿泊し、女将さんに当時の様子や裏話を聞きながら、その価値を肌で感じ、得がたい経験ができた。

### ③ 鮫湖湯について

鈴木氏の父・昌夫氏が福島市の依頼で再建。脱衣所と浴室が仕切られていない、昔の作りを再現した公衆浴場で、設計書も残っていない状態から再現しまちのシンボルとなった。早朝6時半、開店直後に利用してみた。前述のような独自性ある作りに加え、シャワーも石鹼も置かれていなることにカルチャーショックを受けた。また、湯温の高い飯坂温泉の例に漏れず、鮫湖湯の源泉も45°C以上、さらに基本的には水で温度を下げる入浴する。「いかに自分がぬるま湯に浸かってきたか、分かるでしょ?」という常連さんの言葉に、洗礼を受けた気分だった。

建築部材は旧建物と同じ物が使われるなど、明治時代の意匠が継承された素晴らしい建物だった。その甲斐あって、観光集客とともに、地域住民の交流の場となっていることを、文字通り身に染みて経験できた。こだわりの分、予算もかかったようだが、依頼主・福島市の理解もあり実現した。歴史的建物の再生には市の理解ある姿勢も必要だろう。



③鯫湖湯



④会津若松市役所

### ④ 会津若松市役所について

昭和12年供用開始の建物で、老朽化が見られ建替えなど対応が必要となった。一方で、80年以上の歴史ゆえに、内外部とも登録文化財レベルの価値を有し、まちの歴史の継承や景観保全の観点から保存と活用が望まれた。そこで、ランドマークとして部分保存をしていくこととなり、令和4年度末から建替え工事に取り掛かっている。全てを取り壊した方が間違いなく工事費は安くなるようだが、単にお金の問題だけでなく、別の価値を見出し部分保存に踏み切ったことに、関係者の資質の高さを感じた。

西尾市と比べものにならないほど、福島市には古い価値ある建物の再生事例が多くあった。そう鈴木氏に話すと「市や県職員さんの理解は非常にあったと思います。それでもだいぶ壊されてしまっていますけどね。」とのこと。古い建物をむやみに壊すのではなく、まずその建物を壊していくいいものかどうか評価することが必要だと鈴木氏は語る。旧一色町役場リバイバルについては現状逆風下にある。ただ、絶望のうちに散った会津の白虎隊と違い、この時代はどれほど絶望的でも命まで取られることはない。行政の方針を変えられるよう、死ぬ気で取り組んでいきたい。

項目	支出金額	備考
調査研究費	15,500 円	宿泊費 19,000 円 上限 15,500 円
調査研究費	25,990 円	交通費
調査研究費	3,300 円	手土産代
合計	44,790 円	